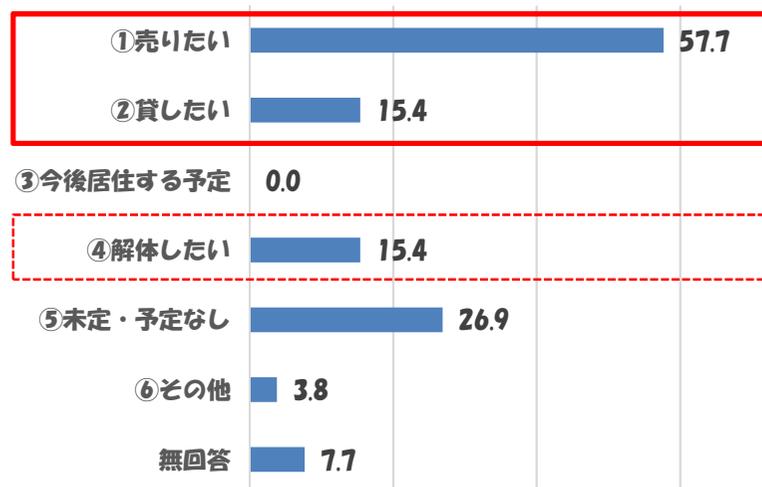


# 当別町空家除却補助金の考え方について①

## ○「意向調査」から見てきたこと①

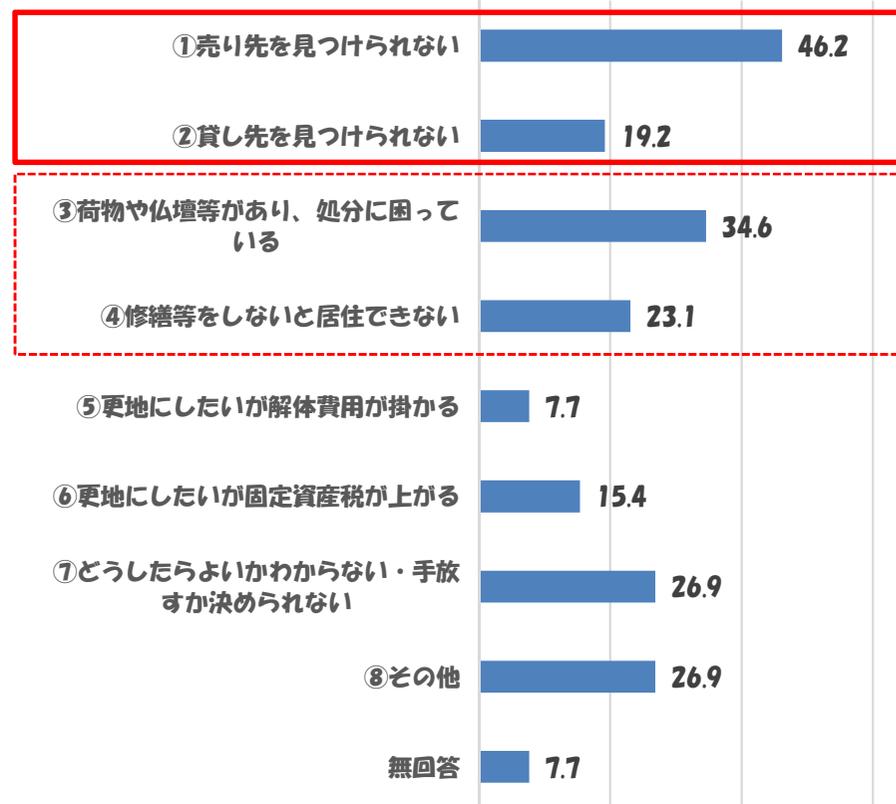
### <問 4 - 1 今後の予定>



☞ 「売りたい」を選択した方が回答者数の過半数を占めており、「貸したい」と合わせると7割を超える結果となった。

☞ 「解体したい」は回答者数の15%超だった。

### <問 4 - 2 今後の課題>



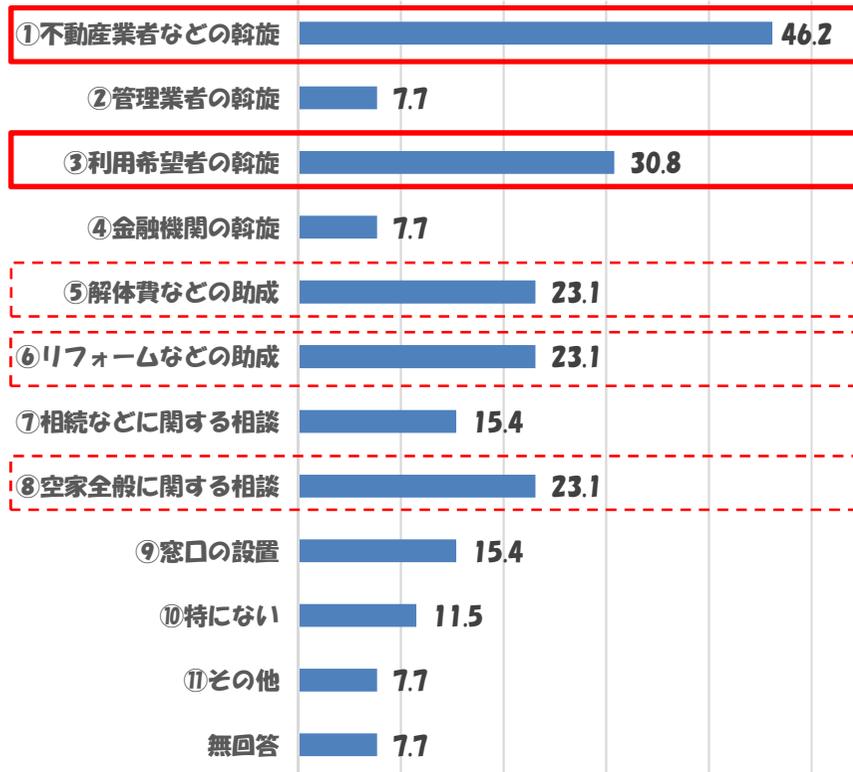
☞ 「売りたい」「貸したい」という意向がある一方で、その相手方を見つけられないことが主な課題となっている。

☞ また、荷物等の処分や修繕が必要となっている。

## 当別町空家除却補助金の考え方について②

### ○「意向調査」から見てきたこと②

#### <問4-3 期待する行政サービス>



- ☞ 不動産業者の斡旋が最も多く、次いで利用希望者の斡旋が多くなっている。
- ☞ 「解体」「リフォーム」の助成のニーズもある。

#### <意向調査結果まとめ>

- ・住宅所有者の多くは「売りたい」「貸したい」という意向（問4-1）であり、そのマッチングができていないことが課題（問4-2）となっている。そのため、斡旋の希望（問4-3）が多くなっている。
- ・住宅の販売や賃貸にあたっては、「荷物の処分」や「修繕」などの課題（問4-2）があり、すぐには住宅市場の流通にのせることができないものもある。
- ・「解体」や「リフォーム」の助成、空家全般に関する相談窓口設置のニーズもある。

## 当別町空家除却補助金の考え方について③

### ○補助金と対象とする空家の整理

建物の危険度	建物の状況	所有者の状況	今後の対応
危険度（低） （約66%）	外観上、住宅市場での流通に支障はないものが多い。	比較的、維持管理が行われている。	町内不動産業者と連携し、住宅市場での流通を支援する。
危険度（中） （約21%）	外観上、建物の破損は見かけられないが、老朽化が進んでいるなど状態はよくないものが多い。	遠隔地に居住しているなどの理由により、適正管理がなされていないものが多い。	建物の危険度がこれ以上高まらないよう、条例に基づく適正管理文書を引き続き発出するなど、指導を行う。
危険度（高） （約13%）	建物の一部が破損しているなど、著しく状態がよくない。 また、周辺環境への悪影響も懸念される。	複雑な親族関係や生活困窮者が多い。	所有者による自主的な解決は難しい

※空家等の適正な管理責任は所有者にあります。

補助制度の検討にあたり、空家除却は原則として建物所有者が行うものであることから、一義的には当該空家によって周辺住民への悪影響を及ぼす可能性があり、建物所有者では対応できないものについて限定的に支援する内容とする。